

# 高度先進睡眠時無呼吸障害特論（有坂博史）

Advanced Course of Highly Advanced Sleep Apnea (Hirofumi Arisaka)

## キーワード

- ① 睡眠時無呼吸症候群の病態
- ② 舌運動訓練と睡眠時無呼吸
- ③ 義歯と睡眠時無呼吸
- ④ 矯正治療と睡眠時無呼吸
- ⑤ 口腔内装置と睡眠時無呼吸

## 授業概要

閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する総義歯の影響について発表した論文は、これまで多数の英語論文に引用されてきた。閉塞性睡眠時無呼吸症候群と歯牙の喪失、顎位の変化、神経調節機能の変化、それにより引き起こされる気道の変化、睡眠時無呼吸の変化などの関連事項について論じた論文を精読して研究方法について議論を進める。また、現在、根治治療として期待されている小児矯正治療、顎顔面外科治療の原理、効果、問題点などについても講義し議論を行う。

## 授業科目の学修目標

閉塞性睡眠時無呼吸症候群の治療は、CPAP治療と口腔内治療に集約されており、医歯連携により治療が行われている典型的な分野である。睡眠時無呼吸症候群の生理、病態の問題点について理解を深め、舌運動訓練、口腔内装置作成時にもその背景にある病態生理を理解して、医師と同レベルの深い知識に裏づけられた治療が修得できるようにする。

## 授業計画

- ① 睡眠時無呼吸症候群の基礎と病態生理・治療を理解する。 15コマ 有坂博史
- ② 義歯が睡眠時無呼吸に与える影響 5コマ 有坂博史  
顎位の修復による睡眠時無呼吸の改善について理解を深める。
- ③ 口腔内装置・舌運動訓練・矯正治療による睡眠時無呼吸の治療の基礎 10コマ 有坂博史  
病態生理に根ざした治療法について理解を深める。

## 教科書および参考書

歯科医師の歯科医師による歯科医師のための睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療 医歯薬出版 奥野健太郎  
睡眠呼吸障害Update〈2011〉ライフサイエンス 井上 雄一 山城 義広

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

特別な予備知識は必要ありません。

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ① 睡眠時無呼吸症候群の基本的な病態・新しい治療を理解し説明ができる。
- ② 顎位の修復による睡眠時無呼吸の改善について理解し説明できる。
- ③ 睡眠時無呼吸症候群の病態生理に根ざした口腔内装置の応用ができる。

## 評価

| 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | 口頭試問 | その他 |
|----|------|------|------|---------|------|-----|
| 0% | 0%   | 0%   | 10%  | 0%      | 90%  | 0%  |

## 評価の要点

- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。3%×30回=90%
- ・その他 学会発表を行う。10%×1回=10%

## 理想的な達成レベルの目安

高度先進睡眠時無呼吸障害特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。